

個別避難計画作成までの経緯

平成18年6月長雨土砂災害（那覇市首里鳥堀町マンション陥没災害）



地盤が左に流れている



コンクリートに亀裂



取り残された車両

- ・断続的に降り続いた長雨により、アパート土台の盛土地盤が沈下(地すべり)
- ・敷地に建つ、地上3階・地下1階建ての賃貸マンションが傾斜
- ・人的被害なし。避難指示14世帯40人、避難勧告14世帯46人

平成19年度 民生委員より平時からの個人情報の提供について要望がある

平成23年度 民生委員へ要援護者名簿の提供を開始

平成27年度 那覇市要援護者等情報管理システムを導入

平成30年度 「避難行動要支援者対策事業」を開始

個別避難計画の作成開始（モデル地区事業H30～R2）

個別避難計画の作成をしての感想

- ・避難行動要支援者→自分のことを知っている人が地域にいるという安心感がある
→福祉避難所が近くにあることがわかり、安心した
- ・避難支援等実施者→事前に地域で計画を作成することで、平時からの見守りに繋がる
→災害時に支援する内容や避難所で気を付けることが事前にわかり、要支援者も支援者も安心できる

1. 要支援者と地域との「繋がり」をつくる

・要支援者、地域住民(民生委員、自治会関係者)、福祉専門職と実際に顔を合わせ、話し合いをしながら個別避難計画を作成することで、顔見知りとなる。

→お互いの関係を築き、平時から交流を持ってもらう

2. 要支援者や地域住民の「自助」「共助」の向上を目指す

・災害時に被害を少なくするためには、自助・共助が重要であることから、地域で集まる際にはパンフレットを配布し、自宅避難の場合に必要な物や要支援者名簿を活用した平時からの見守り、地域での積極的な交流、個別避難計画の作成などについて説明した。

→災害時の共助意識の向上

3. 那覇市社会福祉協議会との協力

・日頃から自治会や民生委員などに関わりが深く、すでに信頼関係が築けているため、スムーズに地域に入り事業に取り組むことが出来る。

→地域主体の取組みができる

1. 医療・介護依存度の高い方の個別避難計画の作成は、福祉専門職の参画が必要

・「障がいのある方の災害時の不安は計り知れない。個別避難計画の作成に協力したい」との意見があった一方、「本来業務ではないため、負担になる」との意見があった。

→福祉専門職への報酬の支払いを検討する

→再度、福祉専門職へ要支援者制度の説明会等を開催し、個別避難計画作成の重要性について理解してもらう

2. 福祉避難所への直接避難が進んでいない

・福祉避難所への直接避難者の選定や移動方法、受け入れ施設との調整、受け入れ施設が被災していた場合の対応などの調整が必要。

→移動方法については、福祉車両の貸与および福祉避難所への移送についての協定を締結予定（R4.3）

→直接避難者を選定し、福祉避難所と要支援者との調整を検討する

3. 避難支援者の確保が困難

・地域の方と交流がないため、避難支援者が見つからないケースが多い。

→災害時に頼りになるのは近所の人であることを説明し日頃から交流を持ってもらう

→個別避難計画を作成するメンバーで避難支援者の候補を探し、その方に相談する（要支援者の自宅近くの自治会班長に相談してみる等）

1 地区を選定し、計画作成を行うメンバーを決める

- ・地域でどのような体制で取り組むかを話し合う
- ・地域防災や避難行動要支援者の支援制度の勉強会を開催する

メンバーの具体例

- ・自治会の役員、福祉や防災の担当者
- ・自主防災組織や消防団のメンバー
- ・民生委員・児童委員
- ・地域包括支援センター職員
- ・社会福祉協議会のCSW(コミュニティソーシャルワーカー)

◆メンバーは地域のことをよく知っている人に協力してもらう

2 地域の要支援者の情報を集める

- ・避難の支援が必要な方が地域のどこにいるのか、民生委員や自治会関係者から情報を集める
- ・「避難行動要支援者名簿」を地域で確認する

3 地域の要支援者を把握する

- ・「避難行動要支援者名簿」や地域で把握している情報を活用し、地域にいる要支援者を把握する
- ・「要支援者マップ」を作成する

◆要支援者マップ

- ⇒地域のどこに要支援者がいるのか
- ⇒要支援者の近くに避難支援者になりそうな人はいるか
- ⇒避難所は近くにあるか
- などの情報がすぐにわかる



4 要支援者とコンタクトをとる

- ・要支援者に連絡し、個別避難計画作成について説明してみる

◆要支援者と日頃から関わりのある方が連絡することで、要支援者が安心して取り組みに参加することが出来ます

5 要支援者と「個別避難計画」を作成する

- ・要支援者から困りごとなどを聞き取ってみる
- ・避難支援に必要な情報を確認し、「個別避難計画」を作成する



6 地域で日頃の見守りスタート！

- ・日頃のあいさつや地域活動をととして、顔の見える関係をつくる

7 防災訓練に参加する（未着手）

- ・防災訓練で「個別避難計画」の検証を行う